

端野の公共交通機関(その2)

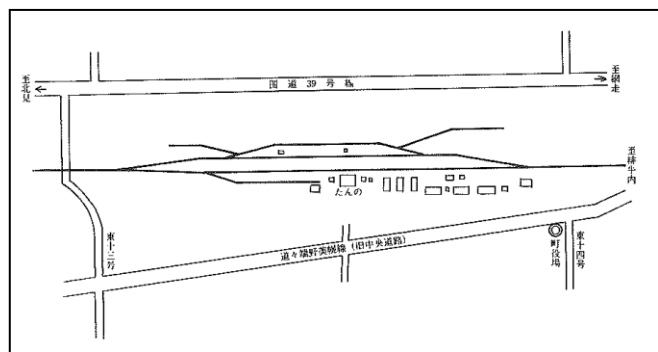
端野停車場(駅)

端野停車場(駅)は、明治四五(一九一二年)に完成しました。停車場構内の面積は52,883平方米、駅舎の面積は約94平方米、その費用は4,288円でした。



▲端野駅(停車場)
(出典:端野小史〔端野の夜明け第二集〕)

端野停車場の位置の決定



▲端野駅(停車場)構内図
(出典:端野小史〔端野の夜明け第二集〕)

網走線における端野停車場の位置は、当初の計画では「東一五号線、東十七号線間」となっていました。この位置は、旧屯田兵第二中隊本部跡地で、端野尋常小学校や端野神社があり、商店や鍛冶屋などが軒を並べ、端野の中心市街地でした。

当時、端野停車場の位置を、この地にする事は、現実的であり、端野地区の住民の皆さんは、当然の事と考えていました。しかし、現在の位置に変更した理由については明らかな記録がなく不明です。

元屯田兵で村会議員であった中村市三郎氏が健在であった昭和二七(一九五二)年に記録された談話の中に「最初、鉄道路線は東六

号付近から兵村の裏側を通り、二区、緋牛内を抜けていくこととなっていた」とあり、同じく、元屯田兵で村会議員であった岩崎猶蔵氏の談話では「端野を通る路線は、野付牛から山沿いに二区からコタン寄りに常呂川を横断して、緋牛内に出るようになっていた」と記録されています。

それにも関わらず、駅が現在のところになった主な理由は、常呂川の度重なる大水と洪水のため川幅が広がり、当初計画していた二区からの鉄橋では、延長が大きくなり、工事が困難と考えられることから、鉄橋の位置を決めてから、停車場の位置を決めたのではないかと言われています。

端野駅の増築案

駅舎の老朽化に加え、利用者の増加により、狭隘になったので、昭和八(一九三三)年、端野地域の方々の陳情により全面改築されました。

陳情書

昭和八年度ニ於テ端野駅停車場ヲ増改築セラレシコトヲ陳情候也

理由

現在ノ端野駅停車場ハ、明治四五年ノ建築ニ係リ相当年月ヲ閲シ腐朽甚シク、待合室並事務室等ノ狭隘ナルヲ御認メノ上、既ニ当局ニ於テ増改築ノ御計画アルカノ如ク及聞タルニ、未タ実現ヲ見サルハ関係村民トシテ甚タ遺憾ニ堪ヘサルトコロニ有之候

当駅ハ日々二百五十人乃至三百人ノ乗降アリテ、待合室ノ狭隘ナルハ萬人ノ痛感スル所ニ有之為メニ、暴風雪ノ期ハ一般乗降客ノ齊シク痛苦ヲ訴フル実情ニ在リ、殊ニ今回当村ハ特別指導町村ニ指定ヲ受ケタル關係上、総テノ施設ニ対シ特別ノ御援助ヲ相仰キ、漸次改良改善等ヲ行ヒ面目一新スルコトニ努メツアリ、且ツ前記ノ關係ニテ近時各地ヨリ視察団ノ来訪スルノ頓ニ増加シツアル現況ニ鑑ミテ、時節柄経費多端ノ際トハ被存候共、昭和八年度中ニ於テ可及的速ニ本村ノ関門タル停車場ノ建物ヲ増改築セラレ、以テ乗降客ニ利便ヲ与ヘラレル様、特段ノ御配意相煩度候

昭和八年八月

常呂郡端野村長 尾谷 清四郎

(ほか村会議員一八名は氏名省略)

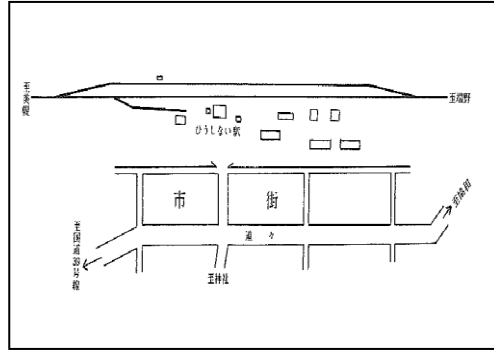
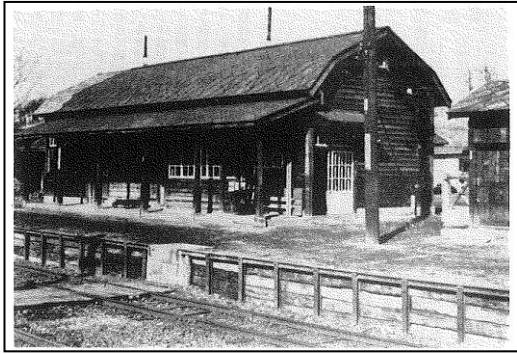
野付牛運輸事務所長 伏見 萬治 殿
 全 保線事務所長 渡辺 時敏 殿

緋牛内簡易停車場

緋牛内地区には、網走線で唯一の「簡易停車場」が設置されました。この停車場の管理は美幌駅長であり、駅員は一人でした。

しかし、荷物の取り扱いはないため、農林産物の出荷や農業資材の受け取り、商品の仕入れなどは、端野停車場か美幌停車場まで、出向かなければならず、大変な苦勞がありました。

そこで一般運送業ができる普通駅昇格運動を展開する事となり、地区住民が一丸となつて、鉄道当局に出向き陳情、要請運動を続け、その努力が実り、大正十(一九二二)年二月二一日に、普通駅に昇格しました。



▲緋牛内駅舎と緋牛内駅(停車場)構内図

(出典：端野小史〔端野の夜明け第二集〕)

網走線の全線開通

網走線は、明治四四(一九一一)年九月二五日、陸別〜野付牛間が開通し、営業が開始されました。野付牛から網走線までの間は、大正元(一九一二)年一〇月五日に開通し、営業が開始されました。

陸別、野付牛間の開通時には、盛大な開通式が行われましたが、同年の七月三〇日に、明治天皇が崩御され、計画していた開通式は中止になりました。

しかし、野付牛から網走間の住民の皆さんで、自主的に祝賀の行事を行う事となりました。

端野での行事は不詳ですが「網走の有志四名が、招待有志の出迎えをとして野付牛に向かう沿線、端野、美幌、女満別駅にて、有志の歓迎盛んにして茶菓子饗応を為し、又鉄道院は車中にてビール弁当等を饗応す・・・」と、釧路新聞(大正元年一〇月八日付)が報じており、各駅もそれぞれに賑わった事と思われまます。

※参考 大正七(一九一七)年の運賃

- ・網走 | 女満別 一九銭
- ・網走 | 美幌 三一銭
- ・網走 | 端野 五〇銭
- ・網走 | 野付牛 五七銭
- ・網走 | 訓子府 七四銭
- ・網走 | 置戸 八八銭

参考文献

・端野小史「端野の夜明け」(第二集)